

□議員名：大井 淳一郎

## 1 提案制度について

|    |   |
|----|---|
| 論点 | 課長提案制度を導入した目的は何か。   |
| 回答 | 現場に一番近い立場にいる課長から実施したいと思う事業を提案してもらおう目的がある。そのことが課長の資質向上、組織としての活性化やチーム力強化につながり、市政も活性化すると考える。 |

|    |   |
|----|---|
| 論点 | せっかく出てきた提案を一つの部署だけのものにしてはならない。単発ではなく他の事業と組み合わせていくべきではないか。                             |
| 回答 | ヒアリングする中で、各部署において活用できるものや広範囲にわたって事業展開が期待できるものを採用している。ドローン事業など多面的に活用できる事業を今後も推進していきたい。 |

|    |  |
|----|--|
| 論点 | 既存の職員提案制度を活性化させる取り組みはあるのか。   |
| 回答 | 若手職員を中心に意見募集をするという取り組みを行い、平成27年度以降、窓口サービスに関する意見など32件の提案があった。今後も提案しやすい雰囲気と、職員の業務改善に積極的に取り組む意識が高まるよう努めていきたい。 |

## 2 自主財源の確保について

|    |  |
|----|--|
| 論点 | サポート寄付の実績状況と今後の方向性は。   |
| 回答 | 平成28年度より返礼品の送付を始めたことで寄付額が10倍を超えるまでになった。今後は他のポータルサイトへの参加を検討し、特産品の開発など返礼品を充実させることで商業振興や地域活性化につなげていきたい。 |

|    |  |
|----|--|
| 論点 | クラウドファンディングの活用を検討してはどうか。   |
| 回答 | 魅力的な自主財源である一方で、集まる寄付金の額を予測することが難しい面もある。市が主体的に取り組むというよりも産業振興や民間団体の活動を支援に活用することが適切ではないかと考える。 |

|    |   |
|----|---|
| 論点 | ネーミングライツを今後どのように展開していくのか。   |
| 回答 | 従来の財源確保や施設のPRだけではなくて、スポンサーとの協働、スポンサーからの提案によるサービス向上、あるいは地域社会貢献事業といった新たな価値づくりについてもあわせて検討しながら、今後の展開を進めていきたい。 |

### 3 自治体クラウドについて

|    |   |
|----|---|
| 論点 | 自治体クラウドの導入により、どれだけのコストが削減され、市民サービスがどのような形で向上するのか。   |
| 回答 | シミュレーションの段階だが、おおむね1割程度の削減ができると見込んでいる。市民サービスの向上については、コンビニ交付、あるいは電子納付など新たな市民サービスの導入について検討できるのではないかと考えている。 |

|    |  |
|----|--|
| 論点 | データセンターで保有管理されている住民情報が流出したりしないか。                                     |
| 回答 | 現在、システムの一部をデータセンターに持っていつているが、これに対するセキュリティーについては、可能な限り万全のシステムだと考えている。 |